

同窓会会報100号に寄せて

17回生

米今 豊秀

74号より85号まで担当

74号(正確には編集途中)から担当した。長く続いた三宅執行部の最後の2期、会計、庶務担当理事を務め、内村執行部に交代するのを機に同窓会の役職から解放された、はずだった。しかし、広報担当常務理事に就任した岩淵通先生が病氣療養のため辞職されたことを聞き、歯科医師会で広報を担当していたことから、内村会長にお手伝いをしましょうかと言ったのが間違いだった。委員でと思っていたのが、そのまま交代の方がスムーズに広報部の活動ができると説得され、常務理事に5月から就任した。理事の小篠先生は先輩であり、委員長の重根先生は小児歯科、鍵和田先生は補綴、小田先生は矯正、小松原先生は保存で学生時代に教わった方ばかり。この他、吉田先生は麻酔科の助教授であり、最初は居心地が悪かった。始まってみると、皆さんに助けられて何とか任期を全うすることができた。

内村会長の方針で、年3回発行であった会報を4回にした。当然経費が増加するので、広告を掲載し収入増を計った。また、読みやすくするため写真を増やし、新年号はカラーにするように心掛けた。そのため校了時期が早まり、クリスマス直前に大学本館にある同窓会事務局で校正を行ったため、家内からはあらぬ疑いを掛けられたこともあった。

色々な思い出は尽きないが、100号を超え会報が益々充実することを祈念すると共に、陰で支えていただいた事務局の皆さんに改めて感謝。



12回生

吉田 耕一

86号より95号まで担当

神奈川歯科大学同窓会会報100号おめでとうございます。

私は橋本執行部の3年間広報担当としてお手伝いさせていただきました。私自身、同窓会活動をよく理解していない不良会員であったにもかかわらず、他の団体で広報の仕事をしていただいた経験から橋本会長(当時)に就任要請をうけて、3年間の間にたいへん良い勉強をさせていただきました。

広報誌は歴代編集責任者も述べておられるとおり、会員と執行部を繋ぐ重要な役割を持っています。また、支部の活動を知ることのできる場であるとおもいます。

編集サイドにいて、いつも悩まされることは一種の御用新聞的に終わらせてしまっただけかということでした。個人への誹謗中傷は出版の原則として掲載いたしません。代議員会後の議事録を読んでいますと、批判的な言い回しであっても会員の執行部に対する警鐘として受け止めなければならないことも多くありました。

現在は代議員会の模様も細かく掲載されており、コラムにも辛口のコメントもみられるようになりました。実にリベラルな姿ではないかと評価しております。

卒業生も36回を数え、広報誌が準会員(学生)を含めた同窓生を繋ぐ情報誌となるとともに、世代を越えた意見交換の媒体になることを希望しています。

